きっかけはボラチャレ

私たちの活動団体に「MG☆SUZU」という名前がついたきっかけは、このボランティアファンド学生チャレンジ賞（以下ボラチャレ）への応募である（活動の詳細は30ページを参照）。ボラチャレの応募用紙に団体名を記入する欄があり、その際に考えてつけたものなのだ。実はこの時はまだ、メンバーは私一人という状況で、団体と呼べる状態ではなかったため、「支援金がほしい。」というよりは、「少しでもこの活動を知ってもらい、新メンバー加入につながれば。」という思いの方が大きかった。しかも、私はこれまで人前でプレゼンテーションなどしたこともなく、不安でいっぱいの選考会だったが、ボラチャレの応募を機に出会った先輩や仲間に助けられ、自分でも信じられなかったが支援金を頂くことが出来た。このような選考会の後の中間報告会という、「人前で発表する」機会は、私に大きな刺激を与えてくれ、自信にも繋がったと今振り返ってみて改めて強く感じる。

MG☆SUZUがボラチャレで応募した企画は「アートプロジェクト」というものである。MG☆SUZUが活動している高齢者と知的障害者のための複合施設である「福祉プラザさくら川」には、素敵な魅力を持った利用者の方がたくさんいらっしゃる。私はその魅力をアートという誰もが心で感じることのできるもので表現出来たらと考えた。そこで、アートを創っていく中で利用者さんと学生が交流を深め、交流の時間を利用者さんに楽しんで頂き、そういった過程で完成した作品を通して利用者さんの魅力を地域に発信していきたいということを、このプロジェクトのコンセプトにした。

しかしながら、このプロジェクトを企画した段階では、利用者さんの様子というものを全くと言って良いほど理解しておらず、全ては頭の中で考えたものであった。そこで、施設の方からも指摘を頂いて、従来の茶房さくら川での活動に加え（茶房さくら川については30ページを参照）10月からは施設内の特別養護老人ホームでボランティア活動に参加するようになった。しかしそこで、私たちが考えていたものとのギャップに悩まされた。当たり前のことだが、利用者さんには一人一人個性があり、その個性にあった制作活動を考えることは難しい。私たちが何かを「作らせる」のではなく、利用者さん自らが「作りたい」と思うものを制作しなければ意味がないのだ。そのきっかけとなるものを私たちは日々考え、色々なもので工夫しながら挑戦している。そんな中で粘土を使ってみたところ、私たちが考えつかないよう作品が生まれたり、レンコンの断面に色をつけ、半紙にスタンプの要領でペタペタとおすということを行ったところ、とても個性豊かな作品ができあがったりと、毎回新鮮で新しい発見が生まれるようになった。3月末には、ボラチャレで頂いた支援金で学生が用意した木に、このように創られた利用者さんの「アート作品」を花に見立てて、施設と大学内で展示することを計画している。正直、どんなものになるか全く予想がつかない。しかし、この木が春にどのような花を咲かせるか、わくわくしながら私たちMG☆SUZUは動いている。

（社会学部社会福祉学科２年　依田 ツカサ）